

知っておきたい 診療技術

今からはじめるエイジングケア
—MCIスクリーニング—

アルツハイマー病
治療の進歩

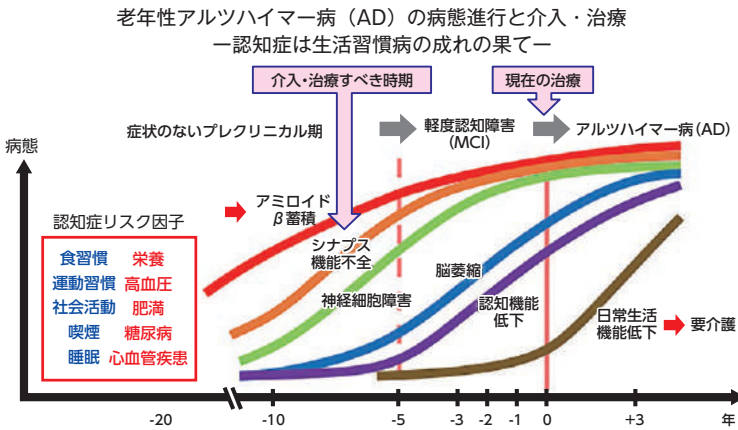
最近、アルツハイマー病の治療薬である「レカネマブ」が注目を集めています。レカネマブは、アルツハイマー病の原因となる脳内のアミロイドβを除去する作用がある薬剤で、アルツハイマー病の進行を抑制し、認知機能と日常生活機能の低下を遅らせる効果があります。アメリカの臨床試験では、アルツハイマー病の前段階である軽度認知障害(MCI)と軽度のアルツハイマー病に対する有効性が確認されています。日本でも最近、治療薬として承認されました。



「レカネマブ(商品名レケンビ)」。アメリカでは患者一人あたり年間300~400万円の医療費がかかるとされている。

アルツハイマー病の前段階 「MCI(軽度認知障害)」

アルツハイマー病の進行には長い時間がかかります。まず、脳内に蓄積したアミロイドβなどにより徐々に神経細胞が障害され、数年の期間を経てMCIに至ります。その後、MCI発症から1年で10%、5年で半数以上の患者さんがアルツハイマー病に移行し、徐々に認知症へと進行していきます。MCI



Jack CR et al. Lancet Neurol (2010), Sperling RA et al. Alzheimers Dement (2011) より改変
内田和彦ら、軽度認知障害(MCI) およびアルツハイマー病のための血漿タンパク質 LC-MS/MSスクリーニング検査の開発。2021 第62回日本人間ドック学会学術大会 PO-03 より

MCIのリスク検査

の段階ではあまり日常生活への影響は目立たず、約30%の患者さんは正常の認知機能に戻ることもあるため、「歳をとったせいかな」と思い受診しないこともありま。そのため、アルツハイマー病の原因とする認知症は、症状がある程度進んでから診断されることが多いといわれています。

エイジングケア科では、MCIになりやすい(または既にMCIの可能性がある)かどうかを調べる「MCIスクリーニング検査プラス」を行っています。この検査では、アルツハイマー病に関係する血液中のタンパク質を測定し、MCIやアルツハイマー病のリスクを調べます。あくまで、リスクを調べる検査のため、この検査だけでアルツハイマー病の診断はできません。自覚症状のないうちから1~2年ごとに検査を受け、中高リスクの結果が出た場合は専門医の診察を受けることをお勧めします。

採血のみの簡単な検査で、認知症の早期発見・早期治療に役立ちます。40歳以上の方にはぜひ受けていただきたい検査です。

認知症は、発症の20~30年前からの生活習慣が大きく影響するといわれています。

- 血圧・血糖値が高め
- ストレスを感じる
- 運動不足
- 睡眠不足
- 食生活の乱れ など

「MCIスクリーニング検査プラス」は、エイジングケア科のほか、人間ドック等のオプション検査でも受けられます。MCIのリスクを調べ、認知症予防に取り組みましょう。

採血1本でわかる
認知症前段階のリスクをチェック
MCIプラス
スクリーニング検査
こんな生活習慣の方は要注意

※ただし、自己免疫性疾患、急性脳炎、肝硬変、先天性脂質異常の方は正しい判定結果が出ないため、ご注意ください。

(エイジングケア科医師
神林玄隆)